

農学部公開講座「生物・人・自然の調和を考える」

平成 29 年 11 月 25 日、名城大学天白キャンパス共通講義棟南 S-101 教室にて、農学部生物環境科学科主催の公開講座「生物・人・自然の調和を考える」を実施しました。

講師は本学農学部、長田典之准教授・福井県立大学生物資源学部 吉岡俊人教授が務められ、森林における樹木の生き様と人とかがわって生きる雑草が持つ、しぶとさとあやうさについてご講演頂きました。

長田先生からは植物の葉が生え、枯れて落ちるまでの周期（フェノロジー）に関する調査報告を写真やグラフなどを用いてご講演頂き、吉岡先生からは雑草と人間の共存に関する関係性についての内容を BBC が制作した番組を例に挙げながらご説明頂きました。日本の原風景、里山が Satoyama と世界的に認知されているということや、雑草の存在が生物多様性という観点に立った時、必要な存在であるという内容がとても印象的でした。

当日は、約 200 人の方が参加され、熱心にお二人のお話に耳を傾けていらっしやいました。

講演会の開始前および終了後はパネルディスカッションも実施し、生物環境科学科の一年生が日ごろの実験・実習の成果を発表し、教員から講評を頂くなど活発なやりとりが繰り返され、一般来場者も積極的に質問している様子を見ることができました。

